

武雄市文化のまちづくりデザイン会議 会議録

<p>日時</p> <p>令和3年10月25日(月) 14:00 ~ 16:50</p>	<p>場所</p> <p>武雄市文化会館 大集会室 A 中集会室 A</p>	<p>出席</p> <p><input type="checkbox"/> 委員(山口夕妃子会長、七田忠昭副会長、井上俊正氏、田中友子氏、松尾陽輔氏、川副義敦氏、井上祐次氏、中野博之氏、光武英樹氏、鳥谷憲樹氏、永松直子氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏)</p> <p><input type="checkbox"/> 松尾教育長</p> <p><input type="checkbox"/> 市役所 企画政策課 中村係長</p> <p><input type="checkbox"/> カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社 笠井氏、山本氏</p> <p><input type="checkbox"/> 事務局 こども教育部文化課新文化会館整備準備室</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第4回 武雄市文化のまちづくりデザイン会議 (テーマ: 構想骨子案・新しい文化エリアの設定とディスカッション)</p>

<p>議事録</p>	
	<p>1. 開会(進行: 山北文化課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲葉委員についての報告</li> <li>・今回よりカルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社が運営補助で入る旨の説明</li> </ul> <p>2. 議事: 構想骨子案・新しい文化エリアの設定とディスカッション</p> <p>①第3回までの振り返りと構想骨子案の提案について(山北課長、事務局 中島より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前回までのディスカッションでの委員の皆様の発言をもとに、2つの柱、4つの施策の方向性、それに伴う9つの施策として、事務局案として分類したものの説明。</li> <li>○構想タイトル(武雄 新~SHIN~文化都市構想(仮称))についての説明</li> <li>○構想策定までにおける今後のスケジュールについての説明</li> </ul> <p>《質疑》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3つの基本理念の考え方と柱の関係は。 <ul style="list-style-type: none"> <li>基本理念の考え方があり、それを具体化したもので示しているのが2つの柱</li> <li>基本理念の考え方は行動を起こすまでの基本的なものになるので広い概念として考えている。</li> </ul> </li> <li>○新~SHIN~は今新しいが今後は新しくなくなるのではないかという懸念もある。</li> <li>○新しい文化はこれまであった昔の文化は取り込まないのか。これまでの文化を残しつつ新しいものを生み出す必要がある。</li> <li>○市民の文化についての関心はどの程度あるのか。最近特に市民の関心度が低いことが懸念される。どれだけ関心を集め、取り組みが実行できるかが重要になってくると思う。</li> <li>○ボーダーレスというキーワードについて「開かれた」ものをどの程度開かれたものと考えていくかが重要。高齢者、障がい者だけでなく、性別、外国人など他の要素も考え、インクルーシブな文化を考えていく必要がある。</li> </ul> <p>⇒構想骨子案について委員の皆さまより承認をいただく。今後これを大枠として進めていく。文言については、随時修正を加えていく。</p>

②新しい文化エリアの設定と方向性の提案について(事務局 井手より)

○市民文化の森構想におけるゾーンとの違いについて

○各町文化エリアと、その中核としての「新しい文化エリア」の方向性と今後の展開について

③ディスカッション(2グループに分かれて)

(1)新しい文化エリアの設定と方向性・各町の地域文化との連携

○1グループ

- ・A 歴史ゾーン Bやすらぎゾーン C賑わいゾーン という名称は、すんなりはいるのでは。認識することによって動きやすく、回遊性が高まる。ネーミングづくりがすごく大切。
- ・テーマごとにマップを設けるのが良い。長崎街道コース、やすらぎコースなど。テーマを設けて。
- ・文化会館が文化活動の拠点ではあるが、時代の流れで文化の学びをカフェ、商店でする、会場をまちなかにするのはよいのでは。まちなかにサテライト基地があっても。
- ・公民館は外せないが市域によっても人があつまっているが変わってきている。若い人が集まる場所が見えていない。そこをどうやって見えるようにしていくかが必要。
- ・合併後始まった伝統芸能まつり。例えば同じ山内でこれまで見れなかったものが見れるように。それが交流するということでは。武雄市全体で行って行く必要がある。
- ・来てもらう人を増やすにはいかに武雄のファンを増やしていくか。次世代のひとに関心を持ってもらうか。担い手が増えないと 発信+人材育成が大切
- ・人材を育成するためのセミナーを取り組まないといけない。文化活動を行う人の支援を行う人の育成する人も含めて取りこまないといけない。
- ・囲わず、広げることが大切。文化会館も古くなり緑に囲まれていてクローズなイメージ。もっとオープンに。

○2グループ

- ・「新しい」が先行してしまう SHINを説明する副題を入れたほうが良いのではないか。古い文化を排除しない。SHIN に多様な意味が含まれるような表現に。エリアについてはボーダーレスと言いながら境界を作っている感じもある。表現に工夫を。また、この地域はこんな文化と規定せず、地域に住んでいる方の考えを上手く取り入れるような表現を。
- ・文化に興味を持つきっかけづくりという視点を。住んでいる人々がどう思っているかを参考に。イベントも単発ではなくつながりがある感じを。
- ・行政は文化の担い手にはなれない。行政、民間、市民が三位一体となって考えていく必要がある。
- ・ゾーンについてABC分ける必要まではないのでは。薄く広く文化に接したことがある人を

増やすことが大事。アクセスできる機会を増やす。いろいろな人が気楽に寄ってみたいくなるようなことをたくさん打つことが大事。図書館・歴史資料館、市役所など人が集まる場所に文化を身近に感じるようなものがあれば。

・小さいころに文化に触れた体験はその後の経験にとっても影響する。同時にベテラン、大人も自分のやっている文化活動に気づき、誇りを持ってほしい。

## (2)延岡市駅前複合施設 エンクロス(宮崎県延岡市)における新しい市民活動についての説明

(リモート CCC中林さん) \*ディスカッションにおけるひとつの事例として

○2018年開館の複合施設(駅の待合、市民活動、キッズスペース、カフェ、地域情報拠点など)

○市民活動のサポート。利用者と活動する団体・個人をつなぐ役割を果たしている。

○市民活動件数は月80件、1万人程度が使用。館内いろんな箇所で開催している。

「にぎわいが見える建築」をコンセプトに実施。運営も徹底的にオープンで。

○高齢者の利用も多い。市民の方がやりたいことがメイン。オープンスペースでカラオケ大会も。

## (3)誰もが主人公になれる新文化(活動)について

### ○1 グループ

- ・市民の文化活動をサポートする側も組織化しないといけないのでは。組織化は課題と言える。
- ・賑わいがないのではなく、文化会館・公民館でやっているが見えないだけ。ガラス張りにするだけで、同じ高さにするだけで境界線を消してくれるような気がする。
- ・誰もが主人公になれる新文化という考えは「体験させて」、「ふれさせて」ということをやらないと。傍観者ではいけない。気軽に参加できる活動づくりが重要。
- ・市民の方の中にはすごいスキルをもっているけど遠慮している人が多い。市民講師養成講座があっても面白いのでは。みんなで認知していく。
- ・サークル活動は現在たくさんあり賑わっている。昔からある文化活動も大事にしたい。武雄の良さを残していきたい。一方で若い人が関心を持つ仕掛けをしていかないと。
- ・文化活動をカフェとかでやったり見える化することでにぎわいづくりができるのでは。
- ・文化活動を小中学校(音楽室、調理室など)でできれば。社会体育は体育館を使っている。学校を文化活動の場で使えれば。既存の施設を使わないともったいない。
- ・若木町には大楠、風穴、キャンプ場など資源がある。集まって若木の顔となる。つながりが大切であり、武雄の顔としてひとつにまとめて全体での発信が重要。今後文化活動についてもひとつにまとめながら発信していくことが必要。
- ・もっと市民の人に市のことを知るような仕掛けを。バスツアーの実施など。

## ○2 グループ

- ・サークル活動のすそ野を広げるには、若者が文化活動があることを知らないのも一因。広報を工夫したら参加者が増えると思う。
- ・誰もが主人公になれる新文化を考えると、「誰もが」をどう定義するかが関わってくる。住んでいる人、年齢、性別、国籍などの背景がある。
- ・自分事化していく機会を作るべき。ただ見るから、触れる機会をどれだけつくれるか、地元の人たちをいかに巻き込むか。外から来る人(若手、芸術家)を誘致するなどもある。芸術家の移住支援、芸術家・アーティストの活動支援など。
- ・芸術家がまちなかの空き家に住んで文化会館で文化活動を発表するといいかも。
- ・文化会館＝役所の建物なイメージ。若い人が利用しやすくなるように工夫を。若手文化会館活動使用サポートなど。現在のサークル活動者の実際の声を聴ける場も必要と考える。
- ・ずっと文化活動を行っている人々がいるのは財産。若者がフラットに使える仕組みづくりと見える広報を。
- ・文化連盟も別にある。サークル同士のコラボも考えられるのでは。情報発信や繋ぐきっかけづくりを。
- ・実際の活動が見えるような施設づくりも大事。
- ・文化エリアや町全体での催し(まちなか文化祭みたいな)を。旅館での開催も考えられる。

## 3.報告

文化のまちづくりアンケート調査の回答数についての報告

10月1日(金)～20日(水)での実施

18歳以上WEB 520件 紙444件 計964件

中高生WEB 695件 紙6件 計701件 総合計1665件

## 4. 閉会(山北文化課長)

次回、第5回は11月22日(月)を予定。

部長 理事		課長 参事		係長		係員	
----------	--	----------	--	----	--	----	--